



佐藤 稔 議員

行政サービスのバリアフリー化 推進について

問 窓口での外国人市民への対応について、多言語音声翻訳アプリ「ボイストラ」などを活用する事によって、会話がスムーズに進み行政サービスのバリアフリー化が、なお一層向上するものとするが市の考えを伺う。

答（生活安全部長） 有効なツールと思われるため、アプリの内容や運用状況を的確に把握していくよう努めていきたい。



古河版「空き家バンク」の創設 について

問 全国版「空き家バンク」のスタートに合わせて、古河市でも良質な空き家が登録できる、古河版「空き家バンク」の創設を提案するが市の考えを伺う。

答（生活安全部長） 空き家情報の外部提供に対する意向確認等の課題を含め、既に空き家バンクを創設している他自治体の状況の検証に取り組み、創設に向

けて調査研究、情報収集に努めていきたい。

命を守る条例の制定について

問 新自殺総合対策大綱のもと、市内各分野の責務を明確にした、条例の制定を提案するが市の考えを伺う。

答（健康福祉部長） 条例化には行政のみならず市民、企業、学校とあらゆる分野での認識の共有が求められる。来年度予定している自殺対策基本計画の中でそれぞれの役割や責務を明らかにして検討していきたい。

《その他の質問》

・支援アプリによる情報収集について



渡辺 松男 議員

代読代筆支援サービスについて

問 高齢化の進展に伴い、代読代筆等の読み書き支援サービスの潜在的ニーズはますます増加していく。読み書き情報支援員養成基礎講習会で支援員を養成し、公共機関に配置、現地派遣を行えるきめ細かい公共サービスをしてはどうか。また、市役所の窓口に「読み書き支援」のプレートを設置してはどうか。

答（健康福祉部長） 読み書き情報支援員養成基礎講習会を1月に予定している。また、居宅サービスを提供する居宅介護従事者を対象とした介護職員の初任者研修会において、法に基づく合理的配慮の提供について趣旨説明するなど、支援員の質の向上に努めていきたい。また、社会福祉協議会で実施している在宅福祉サービスの連携、支援体制の強化について検討していきたい。プレートの設置については、窓口を設置することによ



り気軽に支援を申し出ることができ、代筆、代読の制度を周知することにもつながるため、実施に向け検討していきたい。

投票率について

問 期日前投票所を駅ビル中央に設置、開催日・時間の延長、投票立会人事務の工夫、行政無線・エリアメールを活用してはどうか。選挙管理委員会には、厳正な選挙事務遂行とともに、市民の民意を拾うため投票環境を改善し、投票率アップを目指してほしい。所見を問う。

答（選挙管理委員会書記長） 今回の投票状況および施設の現状等をよく調査し、投票率アップに向けて検討していきたい。